

出産、育児中の子育て世代を支える雑誌「たまひよクラブ」「ひよこクラブ」(たまひよ、ベネッセコーポレーション刊)で編集長を務める米谷明子さん(56)は深浦町出身。13日、母校の弘前大学で約50人の学生たちに向けて講演、「好きなことを自分の仕事とつなげれば新しいアイデアが生ま

弘前

れる」と述べた。

米谷さんは木造高校卒業後、同大教育学部で幼児教育を学んだ。2年生の夏休みに、雑誌で見た沖繩の離島特集に心動かされて石垣島で3カ月過ごした。その経験をきっかけに、「雑誌編集者になる」と決意。卒業後、婦人生活社(200

好きなこと 仕事とつなげて

たまひよ編集長・米谷さん(深浦出身)



母校の弘前大で講演する米谷さん

弘大で講演 後輩にエール

3年倒産)に就職し、雑誌「ベビーエイジ」で有名小説作家に出産体験記を書いてもらったり、老舗料亭の料理人に子ども用の料理を作ってもらったりして、読者から好評を得た。米谷さんは「婦人雑誌とフィールドが違う人にどう登場してもらうかを常に考えていた」と振り返った。07年には編集の手腕を買

われベネッセコーポレーションに入社。13年、自身の出産の経験を踏まえ妊娠に特化した雑誌「妊活たまひよクラブ」を創刊したほか、22年には「たまひよ」を6冊に分冊し、出産育児の時期ごとに抱える悩みに、細かく寄り添う誌面作りを進めている。

講演会では参加した学生らから「会社で自分のやりたいことを実現するには」「出産育児で仕事を離れてもキャリアアップできる?」など質問が相次いだ。米谷さんは30年ぶりの母校に「学生たちが勉強熱心で頼もしい」と話し、「人生で経験したことは全ていつか役に立つ。興味を持ったことに真っすぐ取り組んで」と後輩たちにエールを送った。(高橋佑)

※この記事は東奥日報社提供です。

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

[問い合わせ先]

弘前大学附属図書館 jm3156@hirosaki-u.ac.jp